

## 外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/22

### バーナンキFRB議長講演に注目が集まる

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	78円台後半の攻防に注目 予想レンジ: 78.60 ~ 81.40 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	欧米の不安対NZの景況感 予想レンジ: 61.30 ~ 64.50 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	➡	欧米の不安が重く南アCPIは限定的か 予想レンジ: 10.40 ~ 10.90 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 8/15~19の主な推移



8/15 Monday	前週末の欧米株が上昇した流れを引き継ぎ、豪ドル/円は序盤から堅調に推移した上、本邦4-6月期国内総生産(GDP)・一次速報が事前予想ほどには落ち込まなかった事を好感して日経平均株価が上昇すると、豪ドル/円は80.32円まで上げた(①)。その後はNYダウ平均の堅調推移を手掛かりに、豪ドル/円は引けにかけて続伸した(②)。
8/16 Tuesday	豪準備銀行(RBA)理事会の議事録が公表された。「市場の混乱が続けば、信頼感と需要が弱まりインフレが抑制される可能性」などと明らかにした事を受け、RBAは当面政策金利を据え置くとの見方から、豪ドル/円は80.35円まで下落。しかし、RBAは豪州経済については楽観的な見通しを示した事から、豪ドル/円は反発した(③)。もっとも欧州市場に入り、ドイツやユーロ圏の第2四半期GDPがいずれも前期からの減速を示した事を受けて欧州株が下げ幅を拡大すると、豪ドル/円は79.80円の安値を付けた(④)。
8/17 Wednesday	欧米株や原油相場の上昇を背景に、豪ドル/円81.14円の高値をつけた(⑤)ものの、米パソコン大手デルが売上高見通しを引き下げた事を背景にNYダウ平均が下げに転じると、その後豪ドル/円は反落した。
8/18 Thursday	日経平均株価や時間外のNYダウ平均先物の下げ幅拡大を受け、豪ドル/円はじり安の展開が続いた。加えて米ウォール・ストリート・ジャーナル紙が「欧州債務危機が米国の金融システムに波及する可能性への懸念から、米連邦準備制度理事会(FRB)が欧州銀行の米国部門に対する監視を強めている」と報じたことを引き金に、NYダウ平均が寄り付きから大きく下落。さらに23時に発表された米8月フィラデルフィア連銀景況指数が市場予想より大幅な悪化となった他、米7月中古住宅販売件数も予想を下回った事を受けNYダウ平均が一時520ドル超の下落となると、豪ドル/円は79.19円まで下落した(⑥)。
8/19 Friday	時間外のNYダウ平均先物の下げ幅を拡大した事や、原油先物相場が一時80ドルの大台を割り込む大幅下落となった事を背景に、豪ドル/円は一時78.85円まで下落(⑦)。ただその後、時間外のNYダウ平均先物や原油先物相場の反発を背景に79.98円まで上昇するなど、値動きの荒い展開となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることへの積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念
- ・豪州の利下げ観測

## 今週の見通し

先週の豪ドル/円相場は78.85～81.14円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.1%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

先週は米国の景気減速懸念に加え、欧州では根強い信用不安を背景に、主要国の株価は下落し、リスク回避の動きから豪ドル/円は一時78円台まで下げる場面が見られた。今週も欧米での懸念や不安を受けて株安が進む場面では、豪ドル/円は軟調な推移が予想される。

ただし、テクニカル面から豪ドル/円を見ると、前週の安値は78.85円となり、78.82円(8/9安値76.50円-8/17高値81.14円の値幅4.64円の1/2戻し)を前に下げ渋ったことから、今週はこのレベルがサポートとして機能するかがポイントとなりそうだ。仮にこのレベルでの底堅さが確認される場合、豪ドル/円には反発余地が生まれる事になるだろう。

その他、今週26日にジャクソンホールにて予定されている、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演が注目を集めそうだ。市場では量的緩和第3弾(QE3)導入期待が根強く、仮に議長が導入を示唆するようだと、株高を受けて豪ドル/円に上昇圧力が掛かる可能性がある。もっとも、現在の米国は1年前と比べてデフレ懸念が後退している事を理由に、QE3導入を懐疑的に見る向きも少なくない。このため、新たな追加策が示されない事も予想され、この場合、それまでの市場での期待が失望に変わり、株安を受けて豪ドル/円は弱含む展開も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 78.60～81.40 円)

## NZD/JPY

## NZドル/円 8/15~19の主な推移



<b>8/15</b> Monday	前週末の欧米株が上昇した流れを引き継ぎ、NZドル/円は序盤から堅調に推移した上、本邦4-6月期国内総生産(GDP)・一次速報が事前予想ほどには落ち込まなかった事を好感して日経平均株価が上昇すると、NZドル/円は64.48円の高値をつけた(①)。
<b>8/16</b> Tuesday	しかし、ドイツやユーロ圏の第2四半期GDPがいずれも前期からの減速を示した事を受けて欧州株が下げ幅を拡大すると、NZドル/円は63.46円まで下落した(②)。
<b>8/17</b> Wednesday	NZ第2四半期生産者物価指数は前期比+1.4%と、事前予想(同+0.8%)を上回るも、市場の反応は薄かった(③)。その後、欧米株や原油相場の上昇を背景に、NZドル/円は一時64.47円まで上昇した(④)ものの、米パソコン大手デルが売上高見通しを引き下げた事を背景にNYダウ平均が下げに転じると、NZドル/円は反落した。
<b>8/18</b> Thursday	日経平均株価や時間外のNYダウ平均先物の下げ幅拡大を受け、NZドル/円はじり安の展開となった。加えて米ウォール・ストリート・ジャーナル紙が「欧州債務危機が米国の金融システムに波及する可能性への懸念から、米連邦準備制度理事会(FRB)が欧州銀行の米国部門に対する監視を強めている」と報じたことを引き金に、NYダウ平均が寄り付きから大きく下落。さらに23時に発表された米8月フィラデルフィア連銀景況指数が市場予想より大幅な悪化となった他、米7月中古住宅販売件数も予想を下回った事を受けNYダウ平均が一時520ドル超の下落となると、NZドル/円は62.70円まで下げた(⑤)。
<b>8/19</b> Friday	下げて始まったNYダウ平均が一時上昇に転じたものの、再びマイナスに転じ、引けにかけて下げ幅を拡大したことから、NZドル/円は62.48円まで下落した(⑥)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。



# NZD / JPY

## 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

## 今週の見通し

先週のNZドル/円相場は62.48～64.48円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.6%の下落(NZドル安・円高)となった。

先週は米国の景気減速懸念の強まりを受け、NYダウ平均が一時10800ドル台割れ寸前まで下落すると、NZドル/円は62円台まで下げた。引き続き、欧州では信用不安が根強く、リスクを積極的に取る動きは期待しづらい事から、今週もNZドル/円は軟調な展開が予想される。

一方、NZ国内では23日、NZ準備銀行(RBNZ)の今後2年間のインフレ見通しの発表が予定されている。前回5月の発表時は+3.0%と前回(同+2.6%)よりも引き上げられた事が好感され、NZドル/円が上昇しており、今回も引き上げられるようだと、NZのインフレ懸念を背景にNZドルが買われる可能性がある。また、24日にはNZ7月貿易収支が控えており、事前予想では1.00億NZドルの赤字(6月は2.30億NZドルの黒字)となっている。赤字幅が事前予想よりも拡大し、輸出も伸びが鈍化するようだと、輸出主導でのNZ経済の回復の可能性という点からみればマイナス材料であり、発表直後NZドルは売り優勢となる可能性がある。

その他、今週26日にジャクソンホールにて予定されている、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演が注目を集めそうだ。市場では量的緩和第3弾(QE3)導入期待が根強く、仮に議長が導入を示唆するようだと、株高を受けてNZドル/円に上昇圧力が掛かる可能性がある。もっとも、現在の米国は1年前と比べてデフレ懸念が後退している事を理由に、QE3導入を懐疑的に見る向きも少なくない。このため、新たな追加策が示されない事も予想され、この場合、それまでの市場での期待が失望に変わり、株安を受けてNZドル/円は弱含む展開も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:61.30～64.50円)

## ZAR/JPY

## ランド/円 8/15~19の主な推移



<p><b>8/15</b> Monday</p>	<p>前週末の欧米株が上昇した流れを引き継ぎ、ランド/円は序盤から堅調に推移した上、本邦4-6月期国内総生産(GDP)・一次速報が事前予想ほどには落ち込まなかった事を好感して日経平均株価が上昇すると、ランド/円は10.82円まで上昇した(①)。しかし、21時30分に発表された米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数が予想を大幅に上回る悪化を受け、時間外のNYダウ平均先物が上げ幅を縮小すると、ランド/円は10.62円まで弱含む場面も見られた(②)。</p>
<p><b>8/16</b> Tuesday</p>	<p>前日のNYダウ平均の上昇基調を引き継ぎ、ランド/円は一時10.88円まで上昇する場面が見られた(③)。しかし、ドイツやユーロ圏の第2四半期GDPがいずれも前期からの減速を示した事を受けて欧州株が下げ幅を拡大すると、ランド/円は10.65円まで値を下げた(④)。</p>
<p><b>8/17</b> Wednesday</p>	<p>20時に発表された南アフリカ6月実質小売売上高は前年比+2.2%と予想(同+2.1%)を上回ったものの、市場の反応は薄かった。</p>
<p><b>8/18</b> Thursday</p>	<p>日経平均株価や時間外のNYダウ平均先物の下げ幅拡大を受け、ランド/円はじり安の展開が続いた。加えて米ウォール・ストリート・ジャーナル紙が「欧州債務危機が米国の金融システムに波及する可能性への懸念から、米連邦準備制度理事会(FRB)が欧州銀行の米国部門に対する監視を強めている」と報じたことを引き金に、NYダウ平均が寄り付きから大きく下落。さらに23時に発表された米8月フィラデルフィア連銀景況指数が市場予想より大幅な悪化となった他、米7月中古住宅販売件数も予想を下回った事を受けNYダウ平均が一時520ドル超の下落となると、ランド/円は10.55円まで下落した(⑤)。</p>
<p><b>8/19</b> Friday</p>	<p>時間外のNYダウ平均先物の下げ幅拡大や、原油先物相場が一時80ドルの大台を割り込む大幅下落を背景に、ランド/円は一時10.52円まで下落した(⑥)。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

## 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

## 今週の見通し

先週のランド/円相場は10.52～10.88円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.7%の下落(ランド安・円高)となった。

今週26日、ジャクソンホールにてバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演が予定されており、注目が集まりそうだ。市場では量的緩和第3弾(QE3)導入期待が根強く、仮に議長が導入を示唆するようだと、株高を受けてランド/円に上昇圧力が掛かる可能性がある。もっとも、現在の米国は1年前と比べてデフレ懸念が後退している事を理由に、QE3導入を懐疑的に見る向きも少なくない。このため、新たな追加策が示されない事も予想され、この場合、それまでの市場での期待が失望に変わり、株安を受けてランド/円は10.43円(8/11安値)や10.21円(8/9安値)を始め、下値を試す動きとなる事も考えられる。

なお南アフリカでは、24日に7月消費者物価指数の発表が予定されている。現在、南ア国内では高失業率、国外では米国の景気減速懸念や欧州の信用不安を背景にリスク回避ムードが強く、仮にインフレ率が南ア準備銀行(SARB)の目標(年3～6%)を越えたとしても、早期にSARBが利上げに踏み切る可能性は低く、ランド/円は買われにくいと推測される。(川畑)

(予想レンジ:10.40～10.90円)

## 経済指標カレンダー (8/22~26)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/23 (火)	15:00		(スイス) 7月貿易収支	+17.7億CHF	—
	18:00	◎	(独) 8月ZEW景況感調査	-15.1	-25.0
	18:00		(ユーロ圏) 8月ZEW景況感調査	-7.0	—
	21:30	○	(加) 6月小売売上高 [前月比]	+0.1%	+0.6%
	23:00	○	(米) 7月新築住宅販売件数	31.2万件	31.5万件
			(米) 7月新築住宅販売件数 [前月比]	-1.0%	+1.0%
	23:00		(米) 8月リッチモンド連銀製造業指数	-1	-8
	23:00		(ユーロ圏) 8月消費者信頼感・速報	-11.2	-12.0
26:00		(米) 2年債入札 (350億ドル)	—	—	
8/24 (水)	07:45	○	(NZ) 7月貿易収支	+2.30億NZD	—
	17:00	◎	(独) 8月IFO景況指数	112.9	—
	17:00		(南ア) 7月消費者物価指数 [前年比]	+5.0%	—
	21:30	◎	(米) 7月耐久財受注 [前月比]	-1.9%	+2.0%
		◎	(米) 7月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+0.4%	-0.5%
	23:00		(米) 6月住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	26:00		(米) 5年債入札 (350億ドル)	—	—
8/25 (木)	15:00		(独) 9月GFK消費者信頼感調査	5.4	5.2
	18:30		(南ア) 7月生産者物価指数 [前年比]	+7.4%	—
	21:30	◎	(米) 8/19までの週の新規失業保険申請件数	40.8万件	—
	26:00		(米) 7年債入札 (290億ドル)	—	—
8/26 (金)	08:30	○	(日) 7月全国消費者物価指数 [前年比]	-0.4%	±0.0%
		○	(日) 7月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.2%	-0.2%
	17:00		(ユーロ圏) 7月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.1%	+2.2%
	17:30	○	(英) 第2四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.2%	+0.2%
		○	(英) 第2四半期GDP・改定値 [前年比]	+0.7%	+0.7%
	18:30		(スイス) 8月KOF先行指数	2.04	1.85
	21:30	○	(米) 第2四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+1.3%	+1.1%
	21:30	○	(米) 第2四半期個人消費・改定値 [前期比]	+0.1%	+0.2%
22:55		(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数 ・確報値	54.9	56.0	

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。